

I 佐倉市の概要

1. 佐倉市の概況

佐倉市は、千葉県北部、北総台地の中央部に位置し、都心から約40kmの距離にあり、成田国際空港から西へ約15km、県庁所在地の千葉市へは北東へ約20km、市北部には自然豊かな印旛沼が広がる行政面積103.69km²の首都圏近郊都市です。

市域は、印旛沼の南に広がる台地、傾斜地、水田から構成されており、鹿島川、高崎川、手繰川、小竹川などが印旛沼に注いでいます。標高30m前後の下総台地は北から南へ向うほど徐々に高くなっている。

また、佐倉城跡周辺、印旛沼とその周辺、南部の農村地帯などは、台地を刻む谷地形の谷津があり、多くの動植物が生息する豊かな自然に恵まれています。

公共交通機関は、京成電鉄本線、JR東日本鉄道総武本線・成田線が市の東西を横断し、都心まで約60分、成田国際空港と千葉市へはそれぞれ約20分で結ばれています。

また、市内には新交通システムのユーカリが丘線が運行されており、バス路線とともに鉄道各駅と住宅地を結ぶ市民の足となっています。

道路状況は、都心と成田国際空港を結ぶ東関東自動車道水戸線が市の南部を通り、佐倉インターチェンジにより国道51号と連結され、市の東西を国道296号、南北を県道千葉臼井印西線、佐倉印西線が走り、主要な幹線道路を形成しています。また、平成26年には都市計画道路3・4・15勝田台長熊千志津霊園関連区間が開通し、今後、国道296号の渋滞緩和が期待されます。加えて市街においては平成27年に圏央道神崎JC～大栄JCが開通し、茨城県とのアクセスが向上するなど、本市への道路状況は向上しています。



佐倉市のまちづくり 歴史・自然・文化のまち～「佐倉」への思いをかたちに～

佐倉市では、人口減少や少子高齢化の進展など、直面する諸課題を乗り越え、「歴史 自然 文化」というこれまで大切に積み重ねてきた資源を、次の世代に誇りをもって引き継ぐため、平成23年度を初年度とする第4次佐倉市総合計画を策定し、全ての人に優しく、活力あるまちづくりを目指した取り組みを行ってまいりました。

前期基本計画期間〔平成23年度～平成27年度〕におきましては、広範囲にわたる施策を計画的かつ効率的に行った結果、「佐倉市に住みたいと思う市民の割合」が増加しております。

しかしながら、本市を取り巻く社会情勢は刻一刻と変化し続け、人口減少・少子高齢化への対応など取り組むべき課題は山積しております。

そのような中、後期基本計画期間〔平成28年度～令和元年度〕では、「人口減少、少子高齢化への対応」を重点施策として位置付け、その積極的な推進を図っているところです。そして、若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えるとともに、「佐倉市に住みたい」、「佐倉市に住んでみたい」、「佐倉市を訪れてみたい」と思われる愛着と誇りのもてる魅力的なまちづくりを進めています。

また、平成16年4月に、国の「健康日本21」「健やか親子21」を踏まえ、佐倉市として「生活習慣病予防(一次

予防)を重視した健康づくり」と「健やかな親子づくり」を体系的、継続的に推進していくことを目標として、健康増進推進計画「健康さくら21」を公表しました。

その後、「健康さくら21」については、この計画の推進による市民の健康意識の高まりを受け、市民一人ひとりの健康や地域の環境づくりにより一層力を入れて取り組んでいくため、平成25年度より、新たに「健康さくら21(第2次)」を策定しました。

「健康さくら21(第2次)」は、計画期間10年間の中間年を迎え、平成30年度には改訂版の計画を策定し、

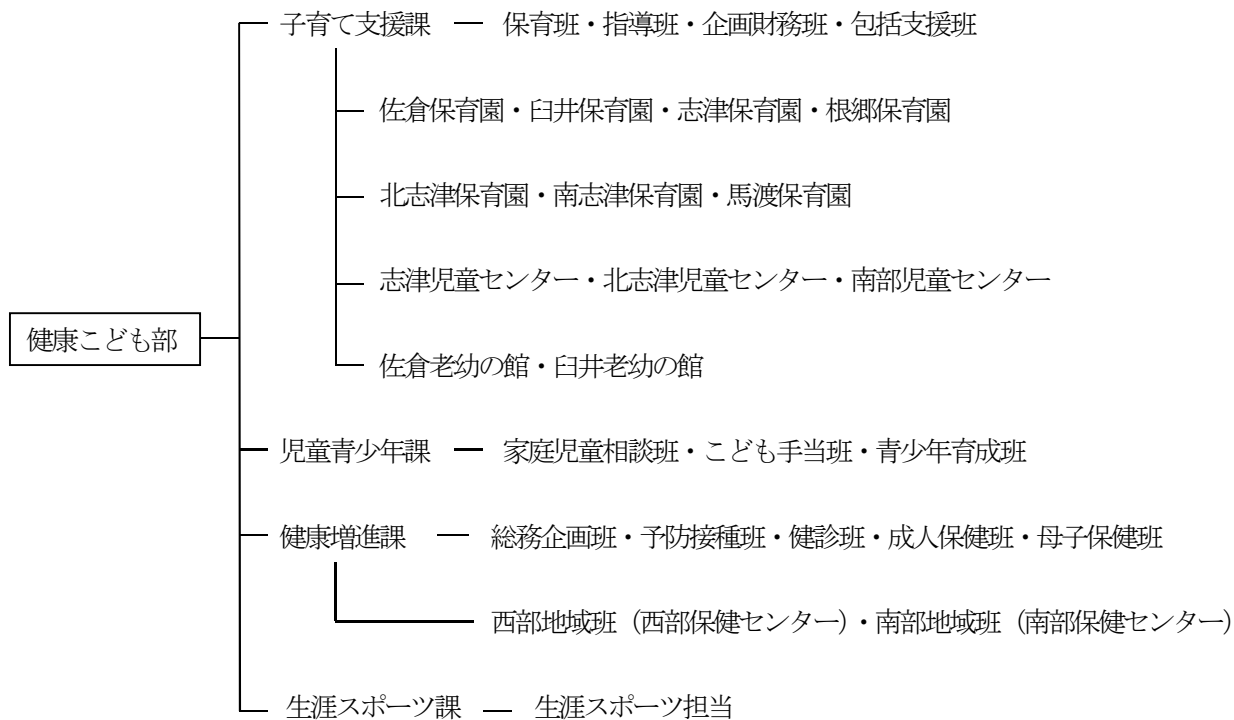
「心もからだも健やかで、幸福な生活が送れること」

を基本理念として、「いつでもいきいきと生活できる市民」、「健康を支える地域社会」の実現に向けた取り組みを、引き続き進めていくこととしました。

また、平成28年に自殺対策基本法が改正され、市町村に自殺対策計画の策定が義務付けられたことに伴い、改定後の計画は自殺対策計画としても位置付けられています。

2. 健康こども部行政組織

(令和元年4月1日現在)



[健康増進課の職種別職員配置状況]

(単位：人)

	保健師	栄養士	歯科衛生士	言語聴覚士	事務職	合計
健康管理センター	18	1	4	4	10	37
西部保健センター	6	2	0	0	0	8
南部保健センター	2	1	0	0	0	3
合計	26	4	4	4	10	48

3. 健康増進課事務分掌

[佐倉市行政組織規則に定められる事務分掌]

健康増進課

- 1 健康づくりの推進に関する事。
- 2 健康診査及び各種検診に関する事。
- 3 保健指導に関する事。
- 4 予防接種に関する事。
- 5 感染症等の予防に関する事。
- 6 在宅寝たきり老人等の訪問歯科診療に関する事。
- 7 妊娠届の受理及び母子健康手帳の交付に関する事。
- 8 低体重児の届出に関する事。
- 9 未熟児の訪問指導に関する事。
- 10 未熟児養育医療に係る審査、決定及び養育医療券の交付に関する事。
- 11 佐倉市保健センターに関する事。
- 12 佐倉市休日夜間急病等診療所に関する事。
- 13 佐倉市小児初期急病診療所に関する事。
- 14 子育て世代包括支援センターに関する事。
- 15 保健師の連絡調整に関する事。

西部保健センター

- 1 佐倉市西部保健センターの管理運営に関する事。

南部保健センター

- 1 佐倉市南部保健センターの管理運営に関する事。

*佐倉市保健センターの設置及び管理に関する条例に定める保健センターの共通業務

- ・健康教育、健康相談その他保健指導に関する事。
- ・各種検診及び予防接種に関する事。
- ・機能訓練事業に関する事。
- ・その他保健センターの設置の目的を達成するために市長が必要と認める業務

4. 保健センター—施設概要

健康管理センター

所在地 〒285-0825 佐倉市江原台2丁目27番地 TEL043-485-6711 FAX043-485-6714

1. 施設

- ・敷地面積 2,739 m²
- ・建物面積(延床) 2,486.21 m²
 - 1階 1,057.33 m² 休日夜間急病診療所・小児初期急病診療所・隔離室・点滴室・
栄養指導室・保健指導室・歯科指導室・消毒室・事務室
 - 2階 1,065.14 m² 予防接種室・言語指導室・小会議室・中会議室
 - 3階 363.74 m² 大会議室・小会議室2

2. 施設整備の履歴

【当初建築】

- ・工事期間 着工：昭和52年3月1日 完成：昭和52年11月30日
- ・総事業費 347,509千円(敷地購入費 121,925千円、委託費 8,310千円、工事費 217,274千円)

【昭和56年度一部増築】

- ・工事期間 着工：昭和56年12月28日 完成：昭和57年3月20日
- ・総事業費 12,950千円(工事費 12,950千円)
- ・事務室 51 m²

【平成3・4年度増改築】

- ・工事期間 着工：平成3年12月18日 完成：平成5年2月28日
- ・総事業費 801,969千円(設計費 31,777千円、工事費 770,192千円)

【平成14年度改築】

- ・工事期間 着工：平成14年7月2日 完成：平成14年8月30日
- ・総事業費 4,305千円(工事費 4,305千円)
- ・診療室 51 m² 点滴室・隔離室 60.7 m²

西部保健センター

所在地 〒285-0843 佐倉市中志津2丁目32番4号 (西部保健福祉センター1階)

TEL043-463-4181 FAX043-463-4183

1. 施設

- ・敷地面積 4,250 m²
- ・建物面積(延床) 2,490 m²
 - 1階 1,192.90 m² 運動指導室・保健指導室・調理室・診察室・消毒室・相談室・事務室・会議室
 - 2階 1,106.12 m² 西部地域福祉センター
 - 機械室棟 191 m²

2. 施設整備の履歴

- ・工事期間 着工：平成9年6月27日 完成：平成10年3月3日
- ・総事業費 1,436,130千円(設計費 46,350千円、工事監理費 21,000千円、工事費 1,368,780千円)

南部保健センター

所在地 〒285-0806 佐倉市大篠塚 1587 番地 (南部保健福祉センター2階)

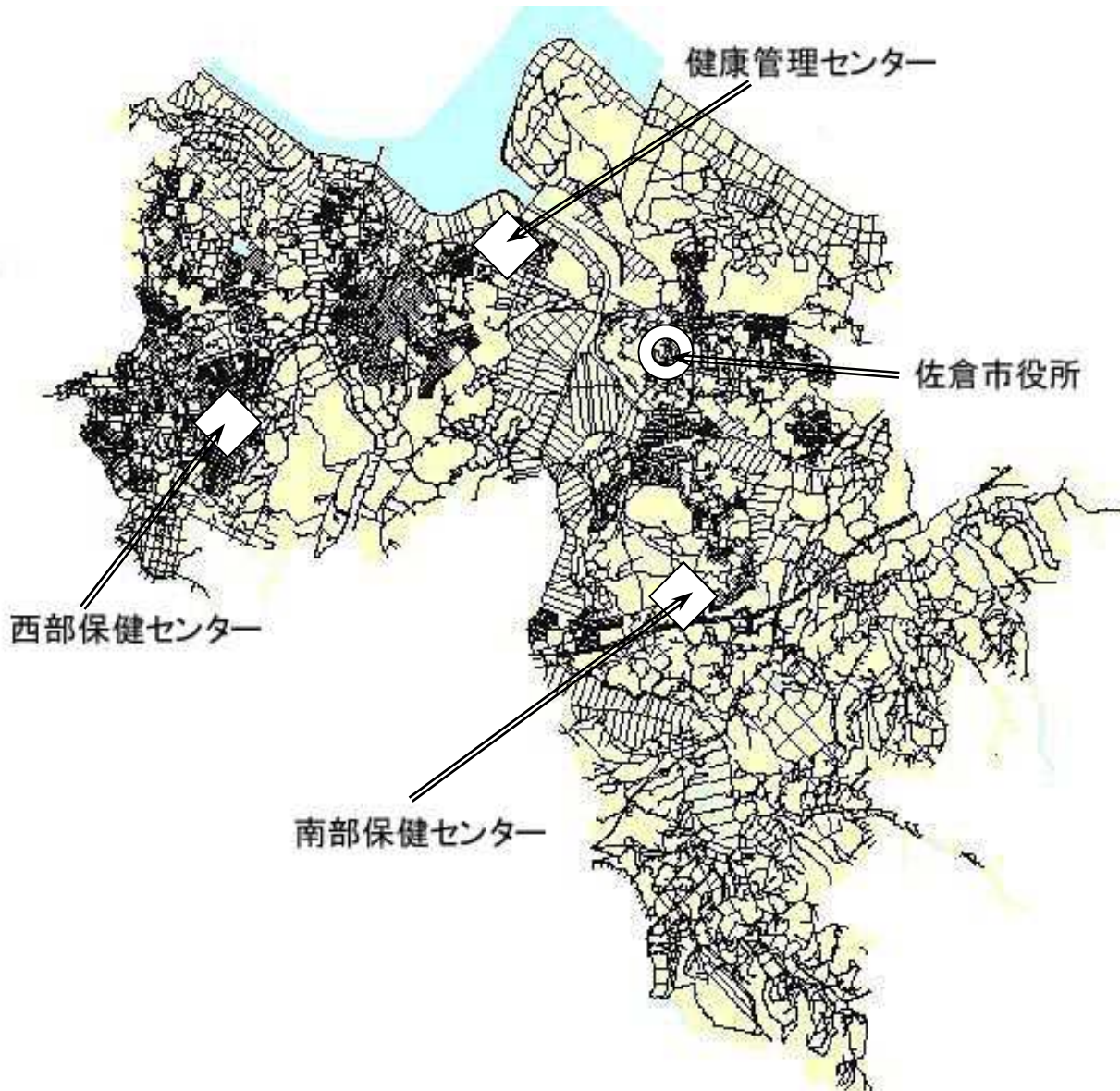
TEL043-483-2812 FAX043-483-2813

1. 施設

- ・敷地面積 8,372.41 m²
- ・建物面積(延床) 3,660.75 m²のうち733.72 m²(2階保健センター部分)
 - 1階 1,992.95 m² 南部地域福祉センター・さくらんぼ園
 - 2階 1,662.62 m² 南部保健センター(保健指導室・調理室・消毒室・相談室・会議室・事務室)
南部児童センター
 - R階 5.18 m² 機械室

2. 施設整備の履歴

- ・工事期間 着工：平成10年9月1日 完成：平成11年12月21日
- ・総事業費 1,839,428千円(南部保健福祉センター)
(設計費 72,070千円、工事監理費 23,625千円、敷地購入費 152,775千円、工事費 1,590,958千円)



5. 歳入歳出決算額の推移

目別歳出決算額

(単位：千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
保健衛生総務費	414,102	346,306	437,402	473,584	437,131
保健衛生費	454,171	436,702	450,987	456,818	450,653
予 防 費	402,438	388,587	399,356	404,564	392,485
休日夜間急病診療所費	185,614	182,513	183,788	186,514	196,000
合 計	1,456,325	1,354,108	1,471,531	1,521,480	1,476,268

※千円未満切り上げのため合計と内訳が一致しない場合がある。

財源別歳入決算額

(単位：千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
国庫支出金	8,446	3,285	4,020	6,747	16,708
県支出金	13,365	9,673	11,130	11,501	11,675
そ の 他	144,465	151,251	152,643	152,545	145,541
合 計	166,276	164,209	167,793	170,793	173,924

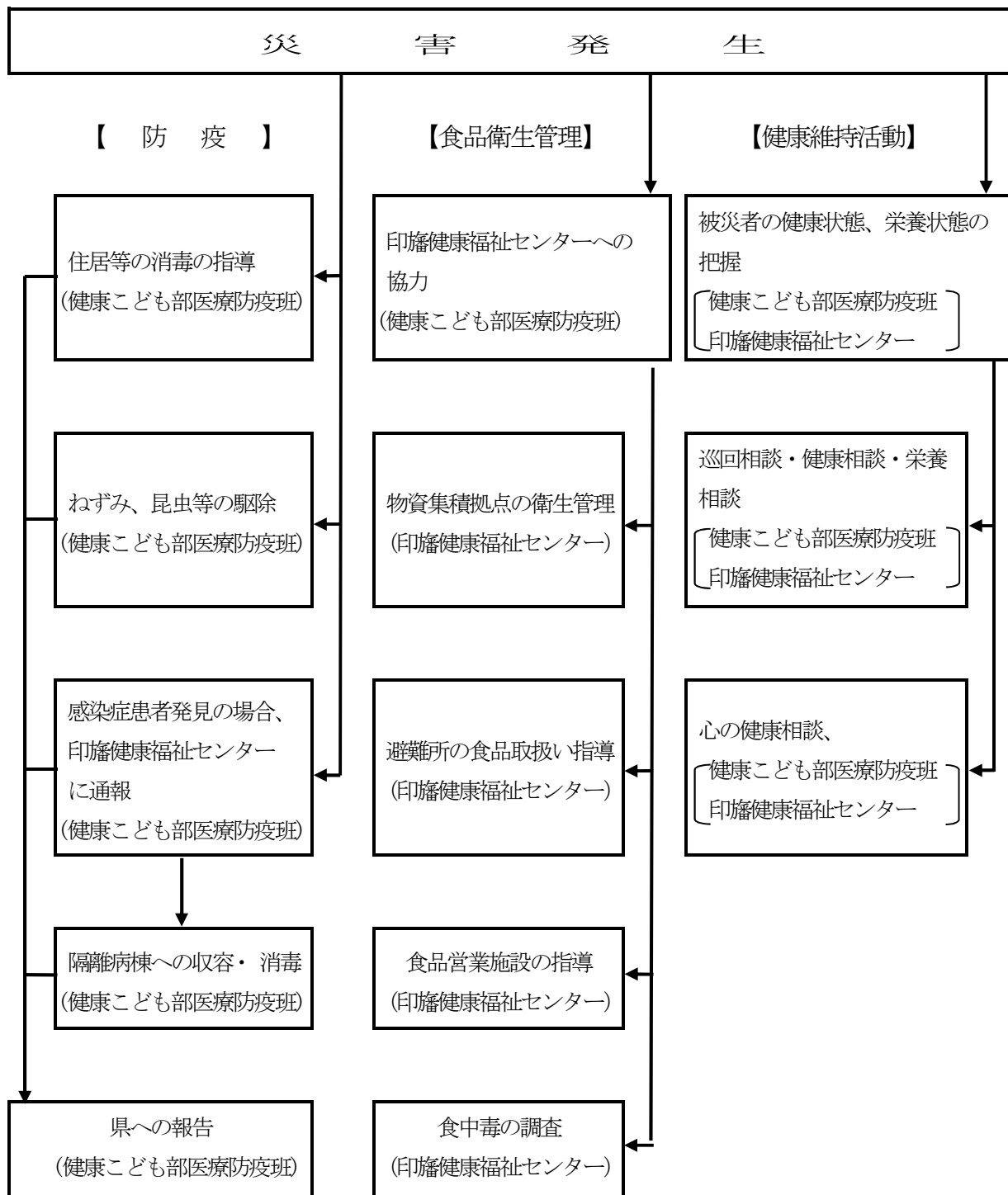
※千円未満切り捨てのため合計と内訳が一致しない場合がある。

6. 地域健康危機管理体制

《佐倉市の健康危機管理体制》

地震等の災害が発生した場合、佐倉市地域防災計画に基づき、印旛保健所及び地域医療機関等関係機関と連携を図りながら、市民の健康維持のため、良好な衛生状態の確保に努める。

《応急対策の流れ》



《災害時応急活動》

災害発生時の対応として、次の事務を所掌する。

健康こども部 責任者：健康こども部長

班 名	所 掌 事 務
医療防疫班 (健康増進課) (健康管理センター) (西部保健センター) (南部保健センター)	<ol style="list-style-type: none">1. 被災者の医療、助産、防疫・救護に関すること。2. 災害時の感染症の予防・防疫に関すること。3. 被災家屋等の消毒・防疫に関すること。4. 医療救護班等の派遣依頼・連絡調整に関すること。5. 医療救護班等の活動の把握、報告、継続の可否に関すること。6. 救護所の設置及び被災傷病者の把握に関すること。7. 市内医療機関の被害状況の把握及び報告に関すること。8. 医療要員・医療用資機材・医療品等の県、近隣市町村、関係機関等への支援要請に関すること。9. 印旛健康福祉センターとの連絡に関すること。10. 遺体の検案及び収容の協力に関すること。11. 健康管理センター及び保健福祉センターの利用者の保護及び避難等に関すること。12. 健康管理センター及び保健福祉センターの被害状況の把握・報告、警備及び応急対策に関すること。

7. 健康増進計画「健康さくら21（第2次）【改訂版】」

① 計画策定の背景とその経過

佐倉市では、“すべての市民が健康で、いつまでも現役でこころ豊かに暮らせる健康なまち”となることを目標に、「生活習慣病予防（一次予防）を重視した健康づくり」と「健やかな親子づくり」を目的とした健康増進計画「健康さくら21」を平成16年3月に策定した。

平成20年度には、「健康さくら21」の中間見直しを行い、保健医療や健康増進に関する国の新たな制度改正、法整備に合わせた施策を反映するとともに、国の健康増進計画である「健康日本21」、千葉県健康増進計画である「健康ちば21」との整合性を図った。また、目標年度についても、当初の平成22年度から、平成24年度に延長した。

「健康さくら21」計画期間の最終年度である平成24年度には、引き続き平成25年度以降も、市民の健康づくりと健やかな親子づくりを推進していくために、新たな健康増進計画「健康さくら21（第2次）」を策定した。

「健康さくら21（第2次）」には、国から示された「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」の内容も反映した。

平成30年度には、「健康さくら21（第2次）」策定から5年が経過したことから、中間評価を実施、課題の検討、目標値や取り組み内容の見直しを行った。さらに、平成28年に自殺対策基本法が改正され、市町村に自殺対策計画を策定することが義務付けられたことから、これまで「健康さくら21（第2次）」において、こころの健康対策を推進してきた経過を踏まえ、自殺対策計画を策定し一体の計画とした。

② 日本における健康づくりの取り組み

(1) 第1次国民健康づくり対策（昭和53年）

健康づくりは、国民一人ひとりが「自分の健康は自分で守る」という自覚をもつことが基本であり、行政としてはこれを支援するため、国民の多様な健康ニーズに対応しつつ、地域に密着した保健サービスを提供する体制を整備していく必要があることから、「生涯を通じる健康づくりの推進」、「健康づくりの基盤整備」、「健康づくりの普及啓発」の3点を柱とした取り組みが推進された。

(2) 第2次国民健康づくり対策（昭和63年）

第2次対策「アクティブ80ヘルスプラン」では、第1次の対策などこれまでの施策を拡充するとともに、運動習慣の普及に重点を置き、栄養・運動・休養の全ての面で均衡のとれた健康的な生活習慣の確立を目指した取り組みが展開された。

(3) 第3次国民健康づくり対策（平成12年）

第3次対策「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」では、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の質の向上の実現を目的とし、生活習慣病及びその原因となる生活習慣等の国民の保健医療対策上重要となる課題について、10年後を目途とした目標等を設定し、広く関係団体等の積極的な参加や協力を得ながら、一次予防を重視した情報提供等を行う取り組みが推進された。

(4) 「健康増進法」の施行（平成15年）

高齢化の進展や疾病構造の変化に伴い、国民の健康増進の重要性が著しく増大しているため、健康の増進に関する正しい知識の普及、情報の収集・整理・分析・提供、研究の推進、人材の育成・資質

の向上を図り、「健康日本 21」を中核とする国民の健康づくり・疾病予防をさらに積極的に推進するため、施行された。

(5) **健康日本 21 の改正（平成 19 年）**

健康増進法に基づく国民の健康増進の総合的な推進を図るための基本的な方針が一部改正され、「健康日本 21」が改正された。

(6) **第 4 次国民健康づくり対策（平成 25 年）**

平成 34 年度までを計画期間とする「健康日本 21（第 2 次）」が開始され、すべての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を目指すべき姿とし、基本的な方向として①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養、食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を推進している。

③ **健康さくら 21 策定の経過**

平成 14 年度	市民健康意識調査の実施、健康課題の抽出、「健康さくら 21」策定委員会の設置
平成 15 年度	「健康さくら 21」計画策定
平成 16 年度	「健康さくら 21」計画公表
平成 18・19 年度	市民健康意識調査の実施、分析（中間評価）
平成 20 年度	「健康さくら 21」計画見直し、公表
平成 23 年度	市民健康意識調査の実施、分析（最終評価）
平成 24 年度	「健康さくら 21（第 2 次）」計画策定、公表
平成 29 年度	市民健康意識調査の実施
平成 30 年度	「健康さくら 21（第 2 次）【改訂版】」策定、公表

④ **健康さくら 21（第 2 次）【改訂版】の位置づけと期間**

この計画は、健康増進法第 8 条第 2 項に基づく「健康増進計画」、「健やか親子 21（第 2 次）」の趣旨に基づく「母子保健計画」、自殺対策基本法第 13 条第 2 項に基づく「自殺対策計画」を一体化した計画である。

「第 4 次佐倉市総合計画（平成 23 年度～平成 31 年度）」を上位計画として、市民の健康づくりや健やかな親子づくりを進めるため、また、誰も自殺に追い込まれることのない社会を実現するため、具体的な考え方や取り組み方法を示したものである。「佐倉市高齢者福祉・介護計画」など、他の分野の関連する計画と相互に連携しながら推進していく。

さらに、国の健康増進計画である「健康日本 21（第 2 次）」、母子保健の推進計画である「健やか親子 21（第 2 次）」、国の「自殺総合対策大綱」等とも整合性を保ち、それぞれの趣旨を踏まえつつ、佐倉市の地域性を尊重した計画としている。

計画の期間は、平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 年間とし、第 2 次計画策定から 5 年が経過した平成 30 年度に中間評価及び見直しを行った。

今後も国や県の健康増進計画の動向を注視しながら、計画を推進していく。

⑤ 基本方針

- ・「健康日本21（第2次）」と「健やか親子21（第2次）」を一体的に含めた計画にします。
- ・自殺対策計画としても位置付けます。
- ・ヘルスプロモーションの考え方を取り入れます。
- ・めざすべき姿の実現のために、目標と指標を設定し、達成状況を評価します。

⑥ 基本理念

心もからだも健やかで、幸福な生活が送れること

⑦ めざすべき姿

- ・いつでもいきいきと生活できる市民
- ・健康を支え合える地域社会

⑧ 基本姿勢

1. 自分に合った健康づくりに取り組もう（一人ひとりの個性と健康観の重視・みんなが主役）
2. 楽しみながら健康づくりに取り組もう（無理をせず自分に合った活動を）
3. 親と子が健やかに暮らせるまちをつくっていこう（地域ぐるみの子育て・子育て）
4. 歴史と自然に親しみながら健康づくりを進めよう（市の資源を生かした取り組み）
5. とともに支え合って健康づくり運動を推進しよう（健康づくりの環境整備・しくみづくり）
6. 誰も自殺に追い込まれることのないまちをつくっていこう（気づき、つながり、支え合う生活を）

【基本理念】心もからだも健やかで、幸福な生活が送れること

【めざすべき姿】

- ・いつでもいきいきと生活できる市民
- ・健康を支え合える地域社会

【基本姿勢】

- ・自分にあった健康づくりに取り組もう
- ・楽しみながら健康づくりに取り組もう
- ・親と子どもが健やかに暮らせるまちをつくっていこう
- ・歴史と自然に親しみながら健康づくりを進めよう
- ・ともに支え合って健康づくり運動を推進しよう
- ・誰も自殺に追い込まれることのないまちをつくっていこう

ライフステージごとの取り組み(幼年期・少年期・青年期・壮年期・中年期・高齢期)

健やかな親子づくりの取り組み

- ・妊娠・出産・周産期
- ・健康管理
- ・育児生活習慣の改善と事故予防対策
- ・思春期
- ・次世代の健全な育成

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

- ・生活習慣病の早期発見と予防に向けて
- ・栄養・食生活
- ・身体活動・運動
- ・飲酒
- ・喫煙
- ・歯と口腔
- ・歯と口腔の健康から、話す・食べるの喜びを
- ・喫煙者の減少と受動喫煙の防止
- ・飲酒の正しい知識とみんなで支え合う心の問題
- ・身体活動・運動と運動を通じた健康増進と地域づくり
- ・栄養・食生活の改善を通じた健康な生活習慣の獲得

いのち支える佐倉市自殺対策計画

- ・このころの健康づくり
- ・自殺予防のための地域づくり
- ・生きる悩んでいる人を地域で支えるネットワークを広げよう
- ・誰も自殺に追い込まれない佐倉を目指して
- ・このころの健康づくりについて理解を深め、心身の健康を保とう

